７月セミナーリフレクション

講　師：愛知学泉大学教授　前田　治先生

テーマ「道徳の授業の話をしませんか」

本日はありがとうございました。“道徳教育”＝“教科化された道徳の授業”という風潮の中で、形式優先の授業が増えている現実を見直す必要がることを改めて感じました。合理的思考によって、問題解決策を導出することに力点を置くあまり「心のない道徳授業」が増えていることも気になっています。児童理解、生徒指導、学級経営と一体となった道徳教育に進んでいくことを望んでいます。
前田先生のお話にとても共感しました。小牧市教職員研修や授業が育つ教師の会で、これまでもたくさんお世話になってきました。道徳について、一週間に一時間、クラスの仲間が多様な考えを聴き合える時間としての良さは感じていますが、自分も道徳の今の方向性について少し心配していました。最近、哲学や哲学対話に関心を持っていて、前田先生と同じようなことを考えていました。それを、言葉やストーリーにしてわかりやすく映像にしてくださいました。やはり面白いですよね。これからも、よろしくお願いいたします。
教科化により、改めて考えたいことの指摘について、確かに留意する点であると納得し、深く考えさせられました。 一番、参考になったのは「二人の弟子」の演習の時間。参加された他の先生たちの意見により、多様な見方、考え方があることから、多くのことが学べる気づきを、あらためて実感できてよかった。
道徳の授業づくりでは、各先生たちがいろいろ苦労している場面をみます。 今日は、道徳の授業づくりのポイントをわかりやすく話していただけたとともに、体験することができよかったです。 これからの道徳の授業づくりと教材研究の大切さを改めて気づくことができました。
道徳の教科化になり、週一回の道徳授業がとても苦痛でした。 本校は、必ず教科書の順番通りの授業が行われています。しかし、今回もっと教材を読み込むことや授業づくりを楽しむことが大切であることを学びました。 教師の働き方改革で、会議など短縮されていますが、教材研究などとても重要であると思いました。今後ともよろしくお願いいたします。
教科化されてから道徳がパターン化されてきたのは、私もひしひしと感じています。 だからこそ、授業者が自分自身で教材を読み深め、自分なりの授業を組み立てる経験を積むことの重要性を強調されたことに共感しました。
道徳の教材研究をすると、国語の読み取りのようになってしまい、疑問に思っていたところに、このセミナーに辿り着き、参加させていただきました。 「心の勉強」ということを道徳の授業の度に子供に確認していますが、小学１年生の子どもでも、道徳は大好きです。きっと自由に、自分の思ったことを発言したり、友達のそれを聴けたりできるからだと思います。 教材研究は、指導書頼みだったので、これからは、もっと教材を読み込んで、考え抜いた発問をしていきたいと思いました。　ありがとうございました。

気になる言葉「どこで話し合いたいか」「場面を想像しながら読む」ことを教えていただき、実際に読んでやってみて、難しさを感じました。やはり、このことをやっていくことの大切さを感じ、これから続けていけるといいなと感じました。 自分の授業が本当にパターン化されていることを知りました。それと、授業記録から学ぶことを初めて知りました。心を読み取ることができ、大切なことだとわかり、やってみたいと思いました。 今日初めて参加させていただき、とても勉強になりました。もっともっと学ばないと・・・と思いました。２学期、自分で読んで気になる言葉からやってみたいと思います。
教科化された道徳への悩みは尽きません。授業を見ていても、いろいろと思うことはたくさんあります。中でも、教材の深い読みは、本当になされていなことが多く、深い読みの大切さは痛感するところです。評価のことも考えると、一時間一時間の授業やユニット的な単元の変化、変容をどうとらえるかも難しいところです。 学校でも、学年や全体で改めて考えていきたいところです。本日は本当にありがとうございました。
一つの教材から、授業をどのように組み立てていくのか、(同僚性) について具体的な仕方がわかりました。教材の読みには、人によって見方や感じ方がさまざまあり、それを話し合うことが私たちの深い学びであり、授業づくりの基本なのだと感じました。 現場では、なかなか時間が取れなかったり、同じ気持ちで授業に向かったり（熱の入れ方）できていないのが現実であります。 一年に一本だけでも、これだけはとみんなで練った授業に取り組んでいけたらと感じました。
道徳の授業づくりは、やはり「教材研究」に尽きるように思いました。 それは、素材である教材をどれだけ分析し、子どもにどのように出会わせるか。さらに、自己内省への接近の指導過程をどう組み立てるかがとても大切だと考えます。そんな気付きをもつことができたセミナーになりました。
「道徳」も、やはり教材研究が大切であることを改めて実感できました。 「二人の弟子」を読み込み、各テーブルにおいて、グループ場面を想像しながら聴き合いをした時間は、自分にとっても大変楽しい時間でした。また、項目にこだわらず、授業のパターンにこだわらす、子どもと、どこで一番話し合いたいのかを考えながら教材を読み込んでいく活動に、共感できました。 自分も生徒も、考えることが楽しい道徳の授業を作っていけるようにしたいです。
人として、未完成な多くの人間が、教師として子どもに生き方を指導することは、とても大変なことで、それが道徳の指導の困難さにつながっているように思える。 いくつになっても、自らが成長途上にある人間として、未完成であることを自覚するとともに、同じ人間として、子どもたちとともに学ぶという姿勢をもつことで、共に、人としての生き方を学んでいけるのではないかと改めて考えさせられた。
教科化が進んで、授業がパターン化しているという話は、その通りだと思いました。 何よりも中学生の場合は、理想よりも、もっと人間の弱さや醜さを生徒とともに教師がさら

け出して語り合うことが必要だと、改めて思いました。
教材文は、道徳の命ですが、それをどう読み解いて与えるか。要は、教材研究の深さが授業の成否を決めるというのを、皆さんと一緒に学び合うことができました。また、年に一回でよいので、心を込めた渾身の授業を組むというのも、確かに、心に響かせるという意味で大切だと思いました。
ありがとございました。今後に生かしていきたいと思います。

前田先生のお話の中で、本日印象に残った言葉が二つあります。
一つ目は「時には、内容項目に関係なくとことんやりたい（生徒と一緒に考えたい）授業をすればいい（年に一回は）」この言葉から本当の意味で道徳を子供たちと楽しむという考えが浮かび、道徳の授業をやりたいという気持ちが高まりました。
二つ目は、「授業記録から子どもの背景（プロフィール）も含めて道徳の授業研究をする」子どもの「つぶやき」「発言」「変容」から目に見えない心が少し見えてくるような気がします。
教材理解を学年でやってみたいです。今日はありがとうございました。

今日は、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。道徳の授業だけをやっているわけではないので、型があると、それにはめてやるだけ・・・・と考えていた自分が恥ずかしくなりました。というより、「やっぱり、求めている授業はそうじゃないよな」と改めて考えさせられました。
学期に一回ぐらいは、自分の生き方を示せるような道徳の授業をやって、子どもの心を揺さぶりたいと感じました。小学６年の学年主任をやっているので、２学期に学年で取り組んでみたいと思います。自分の授業を考えるのも面白そうですし、学年の同僚がどんな授業をするのか見るのも楽しみです。
後半の道徳の授業は、教師としてよりか一般参加者として考えていたので、とても面白かったです。涙に注目することで、いろんな子供の思いが聞けそうだなと思いました。共同で教材を研究するのは、やはり面白く、これが教師としての楽しい時間の一つだなと、改めて感じました。ありがとうございました。

授業研究の進め方について、指導案より教材の読み込みを重視するというお話が、大変示唆的と感じました。
資料中の人物の状況を深く理解することが、価値を実現することの難しさの理解に必要であり、資料をしっかりと抑えなければ、タテマエを確認し合うような授業になりかねないと考えます。
道徳授業について「国語の授業じゃない（読解は重視しない）」という言葉を耳にすることがありますが、かえって、実践の質を下げてしまう危険性があると思います。
道徳授業の基盤、大元の考えについて学べるお話で、学生を連れてくればよかったと後悔しています。